

塩冶地区

社会福祉協議会便り

編集・発行 塩冶地区社会福祉協議会 事務所 塩冶コミュニティセンター内 TEL 21-0248
塩冶社協ホームページ <http://enyashakyo.skr.jp/>

あげそげ塩冶福祉座 “特殊詐欺被害防止寸劇” 出張公演

塩冶社協「あげそげ塩冶福祉座」が出雲市内の2地区で公演を行いましたので紹介します。

◆ 湖陵コミュニティセンター

10月4日(火)、湖陵コミセンにおいて、「悪質商法・特殊詐欺撃退モデル地区指定式」に声を掛けていただきました。

コロナ流行から3年、全ての行事が制限を余儀なくされ、このまま順調に進まなくなるのかな…とと思っていましたが、最近は少しずつ前向き志向で行えるようになってきました。練習時間も十分でなく3年ぶりの公演です。またマスクをつけての“セリフ”は観ていてもとても大変そうでした。劇は還付金詐欺が中心でしたが、出雲では“架空請求詐欺”が多いそうです。出雲署生活安全課の石田英太郎係長の特別出演もあり、和気藹々とした雰囲気のスバラしい寸劇となりました。

◆ 四絡コミュニティセンター

10月6日(木)、四絡コミセンにおいて、「小山・姫原・渡橋3地区合同サロン会」があり、塩冶コミセンに以前勤務されていた四絡コミセンの藤江宏美チーフの紹介で“あげそげ塩冶福祉座”に声をかけていただきました。少しずついろいろな人達に知っていただき、また呼んでいただけることに感謝しつつ、よろこびも入です。3地区合同のサロン会だけに椅子席と役員ほかを合わせて50名弱の賑やかなサロン会でした。

最初は黄門様が四絡に現れて、特殊詐欺を事前に防いでくれました。そして次の準備をしている間、企画部の“もしもしカメよ”の替え歌に合わせて、「きれいに手を洗う手遊び」等の健康体操の指導をしてもらいました。

最後は赤いTシャツ・両手にポンポンを持って“花笠音頭”と“きよしのズンドコ節”の始まりです。会場みなさんも一緒に身振り手振りで、「きよし!」「きよし!」と合いの手も入り、とても楽しそうでした。

司会進行や注意事項等、企画部の二人が最初から最後まで違和感もなく、大役を務めてくれました。





「出雲で被害多数、特殊詐欺に注意！」

湖陵コミセンでのあげそげ塩冶福祉座の公演の後に出雲警察署の方から、令和3年中に発生した特殊詐欺被害について話がありました。

島根県内では73件で約7902万円、出雲市内では27件で約4187万円だったそうです。また出雲では、

今年8月末現在で12件、約550万円の被害とのこと。

あげそげ塩冶福祉座では寸劇で特殊詐欺被害に注意するように毎回訴えています。特殊詐欺は遠いところで起きているのではなく、自分の直ぐ身近に起きている事件であること、改めて注意しないといけません。

令和3年中 特殊詐欺の被害状況	
～島根県内～	
被害件数	73件
被害金額	約7,902万円
～出雲市内～	
被害件数	27件
被害金額	約4,187万円



日々、少しの工夫で健康に！

四絡コミセンの公演の中で行った「誰でも簡単に出来る運動」です。日々の健康体操として・・・。

①貧乏ゆすり運動（医学用語でシグリング）

「貧乏ゆすり運動（座ったまま足を小刻みに動かす）」をすると膝や股関節の痛みが和らいだり、関節の可動改善に効果があるとのこと。



②お腹の体操（手で小腸大腸を刺激）

手でお腹を揉むことで腸が本来の動きを取り戻したり、下腹ポッコリの解消や気持ちが安定してリラックスする効果があり、血行が促進されて身体も温まるようです。

③グーチョキパー体操

唄を歌いながらグーチョキパーを繰り返したり、スピードを徐々に上げて行なう体操です。これにより脳神経が活性化され、認知症予防になるようです。

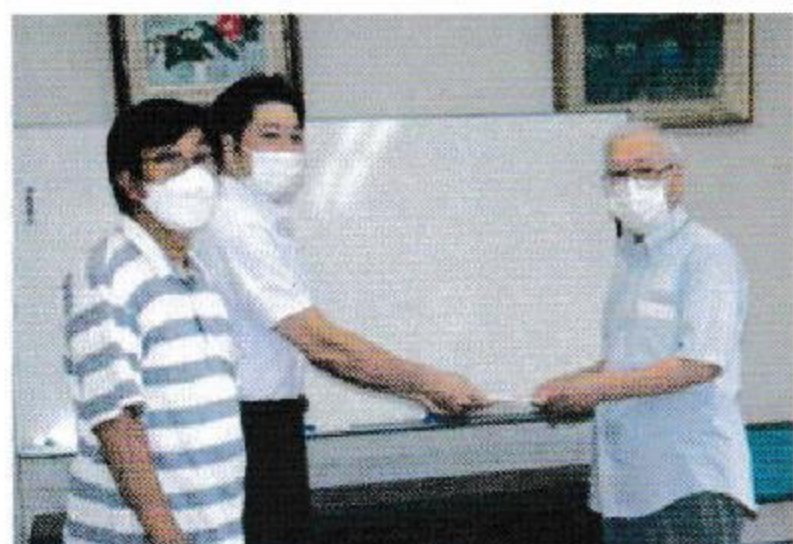


塩冶クラブからの助成金を町内子ども会へ

8月10日（水）、塩冶コミセンにおいて、塩冶クラブ（幹事長 珍部芳裕氏）から助成金（100,000円）を頂戴しました。この助成金は塩冶社協から地区内の21の町内子ども

も会に均等に配付され、子ども会の活発化と地域コミュニティの活性化の貴重な財源として生かされています。塩冶クラブからの助成金は、2006（H18）年度

から始まり、今年度までで累計1,705,000円をいただいております。誠にありがとうございます。



天神サロソ会

3年振りに日帰り研修を開催！

10月12日（水）、天神サロソ会では皆さんが待ち望んでいた日帰り研修を実施しました。



当日は天候にも恵まれ、19名の参加を得て貸切バスにて一路松江に・・・。

始めに遊覧船で約50分をかけて周遊する堀川めぐりを満喫しました。船頭さんのユーモアを交えた語りを聴きながら、松江城や塩見縄手など、船から眺める光景は格別で、タイムスリップしたかのような気分を味わうことができました。

昼食は堀川遊覧船乗り場に隣接する地ビール館でいただきました。全員でビール片手に乾杯とはいきませんでした。皆さん和やかに過ごされていました。



次の島根県立美術館では葛飾北斎コレクション、出雲地方の輸出陶器などを観覧しました。一部の方は企画展「祈りの仏像」もご覧になられました。出雲の国の貴重な仏像が集結し、その姿は圧巻でした。

また美術館の湖畔にはたくさんのオブジェが展示され、宍道湖の眺めも素晴らしく、館内外を楽しむことができました。因みにこの場所は夕日の絶景スポットだそうです。



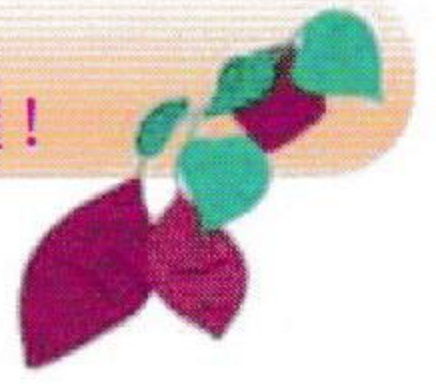
新型コロナウイルス感染防止のため車中及び昼食時の懇談が十分にできなかった等の制約はありましたが、清々しい秋空の下で共に歴史や文化、自然に触れ合うことのできた充実した一日でした。久しぶりに揃っての皆さんの笑顔がとても印象的でした。

なお研修実施に当たり塩冶百寿会様より助成いただきましたことをこの誌面をお借りして御礼申し上げます。

（中天神理事 坂本正人）

日本文化体験の集い

さあ、みんなでさつまいもを掘ろう！
子どもたちに大人気の食育イベント、今年も開催！



10月8日（土）、明け方まで降っていた雨も上がり、さわやかな秋日和になりました。今日は子どもたちが待ちに待ったさつまいもの収穫です。

私たち青少年育成部は外国籍の子どもたちに日本の伝統遊びや調理体験を通して、日本の暮らしに親しんでもらう日本文化理解講座を行ってきました。昨年からは、さつまいもや玉ねぎなどの野菜を実際に育てて収穫し、食べることで、食べ物大切さや作る人への感謝の念を育む、食育の取り組みを始めました。

いも掘り会場の妙伝寺の畑には、外国籍の子どもたちが通う3つの児童クラブから30人が集まりました。保護者の方や私たちスタッフを加えると51人の大人数です。

青少年育成部の高塚部長のあいさつの後に、さっそくいも掘りが始まりました。今回掘ったさつまいもは6月にみんなで植えたもの、夏の暑さと適度な雨で大きく育っていました。

「さつまいもがあったぞ！」「ここにもあった！」
「こいつはでっかいぞ！」畑のあちこちから歓声です。



子どもたちは、手やシャベルで一生懸命に土を掘り、いも掘りに夢中です。大人たちは後ろに控え、スコップで子どもたちのお手伝いです。喜々としていも掘りを続ける子どもたち。自ら土を掘って、その日の糧を得る。元始、ヒトはこうやって食糧を得ていたのかな？なんて思っていました。まさに食育の本質！やがて畑は掘り尽くされ、さつまいもは余さず収穫されました。



続いて、昨年好評だった「大きなおいもコンテスト」です。さつまいもの重さを量り、大きい順に金銀銅のメダルと表彰状を渡します。去年、メダルを買った子は嬉しくて一日中首にメダルを下げていたとか。みんなはドキドキしながら「はかり」の前に並びます。



「第一位、金メダルは970グラム、あきおくんです！」
「第二位はりんさん、第三位はあいなさん・・・」
次々に名を呼ばれ、表彰台に上がる子どもたち。大きなおいもを胸に掲げて誇らしげです。



こうして楽しいイベントは終わり、袋いっぱいのさつまいもを下げて、子どもたちは帰っていきました。

次の食育イベントは11月に収穫したさつまいもでいろいろな料理を作り、みんなで食べてみよう計画しています。盛会だった今回のイベント、私たちスタッフだけで運営す



ることはできません。今回も多く保護者とボランティアの方々に協力をいただきました。とくに子どもたちの引率や見守りをいただいた児童クラブのみなさん、遠く松江から駆けつけてくれた島根大学の学生さんには感謝いたします。また畑の管理作業を手伝ってくれた出雲二中の生徒さん、会場をお借りした日蓮本宗妙伝寺の田中英潤住職に改めてお礼申し上げます。

（青少年育成部 布野達也）

ご寄贈御礼

このたび、次のみなさま方から塩冶地区社会福祉協議会に対し、香典返し及びご寄附をいただきました。

ご厚志に深く感謝いたしますとともに、故人のご冥福を心からお祈り申し上げます。浄財は、塩冶地区の福祉事業のために使わせていただきます。

今後とも、ご支援賜りますよう、お願い申し上げます。

(7月1日から10月31日まで) 敬称略

香典返し

寄附者名	故人名	区域名	寄附金額

※ 掲載欄の — は、掲載を希望されない方

***** 編集後記 *****

コロナの流行で友達と疎遠になりがちで、つい電話で済ますことが多くなった。高齢になるとどうしても家に閉じこもりがちになってくる。気がつくとも観なくても一日中テレビが点いていることが多くなった。

そんな日々を過ごしていてフッ…と私のこどもの頃を思い出した。祖母が朝起きるとすぐにラジオのスイッチを入れ、一日中ラジオが鳴っていた。今のよう電化製品のない時代。洗濯はタライの中で手洗い、すすぎは近くの川で洗い流して手で絞る。帰ったら休む間もなく、かまどに火をおこしてお湯を沸かしたり、釜でご飯を炊く。やかんや小なべは七輪にかける。息つく暇もない。そんな生活の中でラジオから流れる声や音、そして歌声には癒やしや安心感があったのかもしれない。

今の世界情勢…、いいニュースは一握りもない。そんな時、点けばなしのテレビから流れる歌声や動物の鳴き声等、イライラしている時の漢方薬のようだ。

(理事 大賀 幸恵)

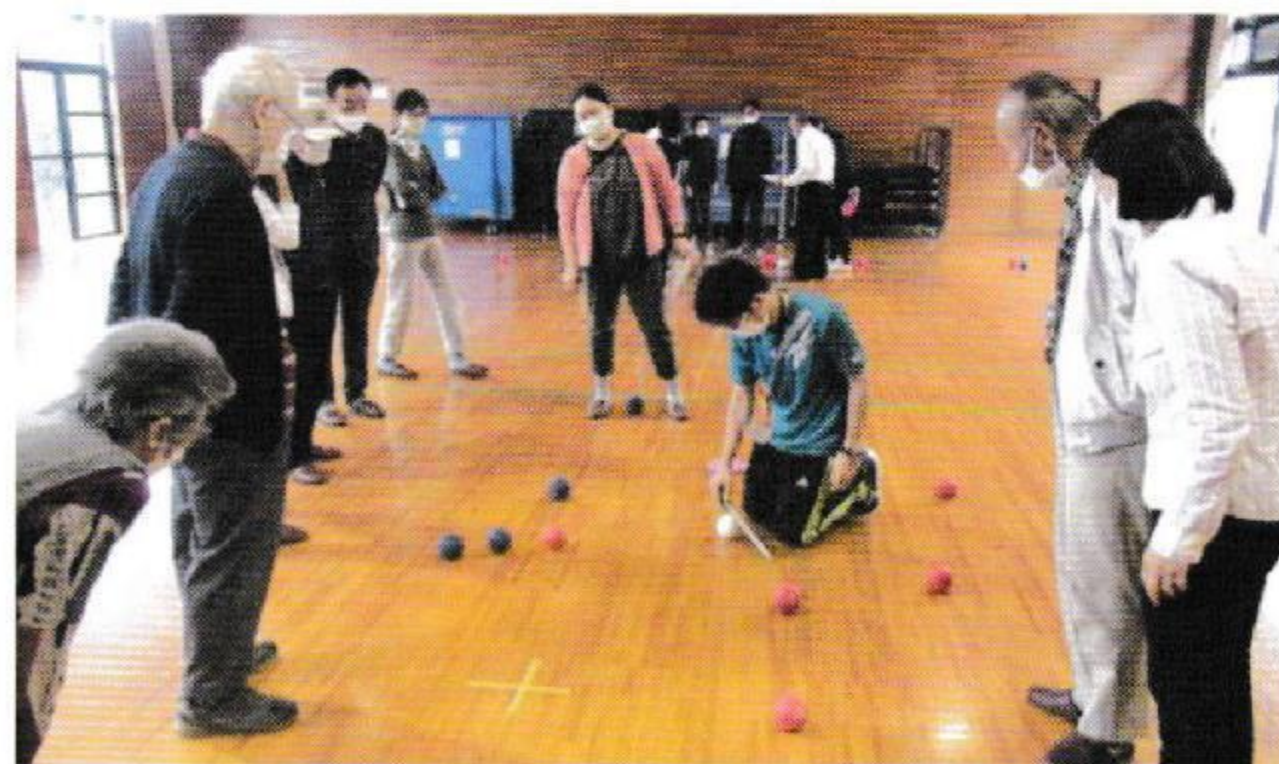
令和4年度 理事研修会 (ボッチャ体験)

10月9日(日)、島根県障がい者スポーツ協会指導員の周藤裕太氏と愛友会の竹下英治氏のお二人を講師に招き、令和4年度の社協理事研修会「ボッチャ体験」をボッチャは初めてという17名の参加により行いました。



障がい者スポーツはその種類によりそれぞれ個別の歴史や背景があること、障がいの程度に応じた形でたくさんのみなさんが楽しんでスポーツに取り組んでいることも教えていただきました。

ルール説明の後に実際にボールを投げてみますが、自分の球を思うように白球に近づけることが出来ません。試合の結果、双方のボールが微妙な位置になると審判の判定に一喜一憂となりました。



「ボッチャ」は誰もが楽しめるスポーツです！

男女の区別や障がいの有無、高齢の方でも自分に合った形でみんなと一緒に同じ場所で楽しめます。

最初に白球(ジャックボール)を投げ、次に赤・青6球ずつのボールを投球し、白球にいかに近づけるかを競います。相手ボールや白球に当てて移動させても良いので、自分のチームが優位に立つよう戦略を考えながら楽しめます。



この地区社協便りは、「出雲市社会福祉協議会の会費、寄付金、共同募金を財源とした助成金」を財源の一部としています。